

SVO 言語の統語特性を探る ①

—主語平叙節のかたち—

橋本 健一

On Some Syntactic Properties of SVO Languages (1):
The Declarative Clause as Subject

Kenichi HASHIMOTO

Abstract

This is Part One in the intended series of studies on the syntactic properties of SVO languages. Section 1 in the present paper takes a look at the word-order typology of languages. Section 2 mentions English, Vietnamese, and Chinese as SVO languages. The SVO properties of these languages are presented in section 4. In section 5 the syntactic forms and properties of the declarative clause as subject of the sentence in these three languages are presented. The fact is pointed out that English has *that*-clause as the normal form of a declarative sentential subject, while in both Vietnamese and Chinese the declarative subject clause occurs without any overt clause-introducer such as the English *that*. Since in all the three languages the declarative subject clause occurs without a nominal head, it is assumed that the clause is some expanded form of S, not an NP. Koster's (1978) framework for dealing with English subject *that*-clause is applied to declarative subject clauses in Vietnamese and Chinese. The latter two languages, however, lack overt *wh*-movement, which makes it difficult to adopt Koster's (1978) idea of *wh*-movement coupled with the satellite sentential. Finally in section 6, it is suggested that LF-level *wh*-movement be considered as a possible solution to the problem.

1. SVO 言語

語順型類型論では、主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O) の三要素を重視する。Greenberg (1963)は、名詞的な主語・目的語を持つ平叙文の語順として、ありうる六種の語順型 SVO、SOV、VSO、VOS、OSV、OVS の中から、主語が目的語に先行するタイプ、すなわち SVO、SOV、VSO の三種が支配的であると言う。¹⁾

この問題に生成主義理論の立場から大胆な光を当てたのが Kayne (1994)である。Chomsky (1986)の X^{bar}理論に基づいて、SVO型だけが「指定部—中心部—補部」(Specifier-Head-Complement)の構造式系を一次的に顕現したものとし、他の語順型は、そこからOが移動した

もの (SOV)、Vが移動したもの (VSO) 等として導きだされる。²⁾

2. 対象言語と構文

ここでは、SVO型と呼ばれてきた言語の中から英語、ベトナム語、中国語の三言語を対象言語として選び、若干の統語的な比較と考察を行う。文の主語となっている従属平叙節を対象構文とする。

3. 資料と略称

書記資料としては以下のものから引用する。これらの他に、母語話者の判断に依存した例が若干ある。

3. 1. 英語資料

Clancy, T. (1987), *Patriot Games*. Berkley Books, New York. (略称: PG)

Terkel, S. (1985), *Working*. Ballantine Books, New York.

3. 2. ベトナム語資料

Nhat Linh, *Bóng người Trên Suông Mù*. (『霧の中の人影』). 『ベトナム短編小説選』. 大学書林. 1982. (略称: BN)

Tổ Quốc 3, 1988. Cơ Quan Trung Ương Đảng Xã Hội Việt Nam.

(『祖国』ベトナム社会党中央機関——橋本直訳) (略称: TQ)

Nguyen-Dinh-Hoa (1972), *Read Vietnamese: A Graded Course in Written Vietnamese*. Charles E. Tuttle Co., Tokyo. (参考文献にも記載) (略称: RV)

3. 3. 中国語資料

王蒙著『蝴蝶』(『王蒙小説報告文学選』) 北京出版社. 1981.

魯迅著・高坂順一注釈『阿Q正伝』 光生館. 1971.

4. SVO言語の平叙文

ここでいう平叙文とは、「太郎が散歩する」、「花子がリーダーだ」などの、いわゆる陳述文のことであり、疑問文と対立し、命令文とも区別される。

4. 1. 英語

英語がSVO型言語であることについては多くの例を必要としない。英語教育で5文型と呼ばれるSV, SVO, SVOO, SVC, SVOCの構文を思い出すだけで充分である。

英語でもOSV, CSVなどの文型がO, Cを話題 (topic) とする話題化文として現れることがあるが、これらはSVO型, SVC型から二次的に導き出される文型であり、英語のSVO型には影響を与えない。³⁾ (1)はSVO構文から導かれたOSV型文, (2)はSVC構文から導き出されたCSV型文である。

(1) A lot of people who work there I don't know. (*Working*, p. 345)

(そこで働いている大勢の人は、僕が知らない人たちだ。)(和訳: 橋本。以下同じ)

- (2) A man very like O' Donnell himself, Michael was. (PG, p. 136)
 (オドネル自身にとっても似ている男、マイケルってそうだった。)

4. 2. ベトナム語

ベトナム語は典型的な SVO 型を示す。

- (3) Tôi là người Việt Nam.

私 です 人 ベトナム

(私はベトナム人です。)

- (4) Họ giúp đỡ dân chúng.

かれら 助ける 大衆

(かれらは大衆を助ける。)

- (5) Bác trồng cây ở nơi này, nơi khác. (TQ, p. 9)

おじ 植える 木 ~に 場所 この 場所 ほかの

(ホーおじさんは、あちこちに木を植えた。)

4. 3. 中国語

4. 3. 1. SVO 型の平叙文

中国語の文の大多数は SVO 型を現わす。

- (6) 他 感到了 那 被 碾压 的 痛楚. (『蝴蝶』, p. 311)

かれ 感じた それ ~される 轢きつぶす 従属標識 痛み

(彼は、それが轢きつぶされる痛みを感じた。)

- (7) 韭菜 落到了 地上, (ibid. p. 353)

ニラ 落ちた 地上

(ニラが地面に落ちた。)

- (8) 那 是 什 么? (Ibid. p. 311)

あれ ~だ 何

(あれは何だ)

4. 3. 2. 中国語における SOV 型の平叙文：「把」構文

中国語文法で「把字句」と呼ばれる構文である。直接目的語（「直接受詞」）が「把」の後、動詞の前に置かれる。⁴⁾

- (9) 他 把 秋文, 広义地 说、把 冬冬 也 丢在了 那边。

かれ 目的語標識 (人名) 広義に 言う 標識 (人名) も 捨ててきた あそこに

(彼は秋文を、広い意味で言えば冬冬も、そこに捨て去ってきたのだ。)

(『蝴蝶』, p.313)

- (10) 蒋介石的空军 把 上海 给炸 平了. (ibid. p. 319)
蒋介石の空軍 目的語標識 上海 爆撃する 平らにしてしまった
(蒋介石空軍が上海を爆撃して焼け野原にしてしまった。)

中国から来た留学生にたずねたら、「把字句」構文は会話の中で数多く使われていると言う。このSOV型の構文はその勢力を話しことばの中で広げつつあると判断される。英語でも、シェイクスピアの時代に、伝統的な直説法現在三人称単数の動詞語尾-thに並んで、新形式の-sが併用されたが、後者はより口語的なコンテキストで多く使われて、結局英語の唯一の常用形となったことを想起させられる。言語変化では、話しことばの中で優越した形式がその言語全体の中で代表形となることがしばしばある。

5. 主語位置における従属平叙節の構造

ここでは、主語平叙節として英語の「that節」と、それに対応するベトナム語、中国語の主語節の構造を対照考察する。

5. 1. 英語の主語位置の「that節」

「that節」は汎用の従属平叙節で、節頭のthatが義務的である主語位置を含めて、すべての補文位置に出現が可能である。主語位置の「that節」の例を挙げる。

- (11) That the man had been wounded was irrelevant. Some things are more important than that. (PG, p. 120) その男が怪我を負ったということは関係が無かった。そんなことより重要なことだってあるのだ。
- (12) That it had disturbed him was a consequence of his civilization. That he was now rationalizing it was a result of ... what? (Ibid. p. 378) それがかれの気持ちを乱したのはかれの教養のせいだった。今やそれを合理化しているということは..... 何の結果なのだろう。

5. 2. ベトナム語の無標識主語平叙節

ベトナム語においては、「..... (という) ことが~だ」のような構文では、「..... (という) こと」に相当する主語平叙節が、英語のthatに相当する節標識をもたないで現れる。

(13) ~ (15) はその用例である。

- (13) Tôi bắt con bướm chính ở giữa cái cầu này đã
私 捕らえる CL チョウ 正 真ん中 CL 橋 この 完了
mười năm nay... (BN, 15)
10 年 今から

(私がこの橋のちょうど真ん中でこのチョウを捕らえたのは、いまから10年前のことでした。)

- (14) Họ giúp đỡ dân chúng làm cho mọi người cảm thấy an tâm.
かれら 助ける 大衆 ~させる 全て 人 感じる 安泰
(母語インフォーマント⁵⁾)

(かれらが大衆を助けることが、みんなに安心を感じさせる。)

- (15) Thủ-tướng Pháp tạ-thể làm cho nội-các từ-chức. (VR, p. 24)
首相 フランス 死す ~させる 内閣 辞職す
(仏首相が死去したことが内閣を辞任させる。)

(14) については、これが中国語の文法で言う連動式構文⁶⁾の類であるかもしれない、つまり動詞 làm cho (～させる) が文頭の Họ と一致する空範疇 PRO を主語としてもっている可能性を否定できないし、(15) についても làm cho (～させる) が文頭の Thủ-tướng Pháp (首相) と一致する空範疇 PRO を主語としてもっている可能性を否定できない。つまり (14) の「各人に安泰を感じさせ」ているのは「かれらが大衆を助ける」(Họ giúp đỡ dân-chúng) という命題ではなくて、「かれら」(Họ) かも知れないし、(15) で「内閣を辞職させ」たのは、「仏首相が死去した」ことではなくて、「死んで内閣を辞職させた」「仏首相」かも知れないのである。⁷⁾

しかし (13) については、完了を表わす助動詞 đã の連動式の主語として文頭の Tôi と一致する PRO を設定すれば、(13) の文は「私がチョウをこの橋の真ん中で捕らえ、(私が) 10年前であった」という意味上破綻した解釈を受けることになり、連動式構文の可能性が否定される。(13) はベトナム語における無標識平叙節形式の主語の存在を実証すると考えられる。

無標識の平叙節を主語とする構文の出現頻度は高くないように思われる。上に引用した (15) の著者の最近の著書 (Nguyễn Đình-Hoà (1997)) にはこの構文が見当たらないのはどうしたことであろう。

Dương Thanh Bình (1971) には、主語節の形式の一つとして、「無導入素型の節類」(Non-Introduced Clausids) が挙げられ、その 4. 5. 4. 節 (ibid. p.142) に例文が二つ与えられているが、そのどちらも命題的な平叙節を主語としているとは解釈できないものである。(16)、(17) として下に引用する。

- (16) Con chó trắng đang gặm xương là con Vện. (= ibid. (68))

CL 犬 白い ~している かむ 骨 ~である CL ベン

- (17) Con chim có mỏ vàng đang đậu trên cây. (= ibid.)

CL 小鳥 持つ くちばし 黄色い ~している とまる 上に 樹

(16) の đang gặm xương には“(which was) gnawing bones”という翻訳が与えられているので、全体の意味は「骨をかんでいる白い犬はベンだ」となる。ここでは đang gặm xương は「接触節

類」(contact clausid)あるいは「無導入素型の入れ込み節類」(non-introduced included clausid)を形成していると著者は言っている (ibid. 142)。接触節は主格関係詞の省略を伴う関係節であるから、この解釈では (16) の主語の中心部は Con chó trắng 「一匹の白犬」であって、主語全体は修飾節を伴う拡大名詞句である。同様に (17) の解釈も「黄色いくちばしをもつ小鳥が樹の上にとまっている」となるように解説されていて、これもやはり接触節である。(16) と (17) が従属平叙節を主語とする複文の例でないことがはっきりしている。明確に無標識平叙節を主語としている (13) とは、そして (14)、(15) のような例とも区別する必要がある。

5. 3. 中国語の無標識主語平叙節

中国語では埋め込みの平叙節はどの統語位置でも無標識である。主語位置の平叙節もそうである。

- (18) 只是 没有 一个人 来 叫 他 做 短工 却 使 阿Q 胆子 饿饿
とは言えない 一人 来る ~させる かれ する 半端仕事 却って~させる 阿Q 腹 飢える
(『阿正伝Q』, p. 47)

(でも、誰一人かれに半端仕事をするように言いに来ないことは、やっぱり阿Qの腹を飢えさせる。)

- (19) 你 这样 说 太危险! 太反动! (『蝴蝶』, p. 349)
おまえ このように 話す あまりに危険 あまりに反动
(おまえがこんな話をするのはひどく危険だ、あまりに反動的だ。)

5. 4. 主語平叙節の統語的メカニズム

5. 4. 1. 主語「that節」をめぐって

英語の主語平叙節 (= 主語「that節」) については、今まで相当に議論があった。以下、典型的なモデルを三つ挙げる。

- (20) 主語の「that節」は名詞句である。
(21) 主語の「that節」は話題化変形 (Topicalization) によって導き出された話題 (Topic) である。
(22) 主語の「that節」は基底規則によって導き出された埋め込み文で、S (文) よりも一段高位の範疇 E (Expression) の先頭にある。

(20) は、Ross(1967), Rosenbaum(1967) で採用された見解で、主語「that節」はNPとSをふくむ書き替え規則 (23) で導きだされる。

- (23) NP → S

今日では、規則 (23)、ひいては (20) の見解の欠点が明らかである。大範疇 V, N, A, S, P は、ダブルバー範疇を頂点にもつ構造式型 (24) の中心部をそれぞれ形成し、相似的な拡大構造を形成する。

- (24) a. $X' = X X'' *$
 b. $X'' = X'' * X'$

(= Chomsky (1986), (1), p. 3. * は、 X'' のゼロ回以上の生起を表わす。)

NP は大範疇 N の拡大範疇であり、S も大範疇であるから、大範疇どうしの間書き替えは起きない。よって規則「NP → S」は不可能である。

次に (21) は、Emonds (1976) が提唱したモデルで、主語「that 節」は、「節話題化変形」(Clausal Topicalization) によって、基底文の主語 $[NP \Delta S]$ から主語に先行する補文標識 (Comp) へと移動して、表層化の障害になっている Δ がその時に削除される。表層の主語「that 節」は話題であって主語ではなくなり、基底の主語位置には空範疇 $[NP e]$ が残される。

Emonds (1976) ではまだかろうじて基底に生き残っていた主語平叙節が、Koster (1978) では基底から消滅するに至る。上述の (22) の方式である。これによれば、“That he will come is clear.” という文は、基底規則および WH 移動の適用により (25) の構造を与えられる。

- (25) $[E [\bar{s} \text{ that he will come }] [\bar{s} [\text{COMP } [NP \emptyset]] [S [NP t] \text{ is clear }]]]$
 (Koster (1978), (35c), p. 60)

$[NP \emptyset]$ の \emptyset の元の形は wh 形式であり、wh 形式は基底で $[NP t]$ の t にあった。⁸⁾ この方式では \bar{S} の「that 節」はもともと文 S の主語ではない。Koster (1978) は、この \bar{S} のような構成要素を「サテライト」(衛星) と呼んでいる。これにより、なぜ主語の「that 節」が疑問文による AUX 倒置や受動化による移動を受けられないかなどの点が簡明に説明される。

三つのモデルのなかでは、Koster (1978) がもっとも簡潔で説明力が高いと判断される。

5. 4. 2. 無標識の主語平叙節のメカニズムを考える

ベトナム語や中国語の無標識主語平叙節は、「that 節」に相当する節標識をもっていないという点だけが英語の主語平叙節と違っている。Koster (1978) の枠組みを使って説明するなら、(13) は、次の (26) のような基底構造をもつ。

- (26) (= (13))
 $[E [\bar{s} [\text{COMP } e] [s \text{ Tôi bắt con bướm chính ở giữa cái cầu này }] [\bar{s} [\text{COMP } [NP e]] [s [NP \dots \text{wh} \dots] \text{ đã mười nam nay}]]]]$

(26) において、[Tôi bắt con bướm chính ở giữa cái cầu này] (私が橋のちょうど真ん中でこのチョウを捕らえこと) は、範疇Eの先頭にある \bar{S} である。英語のthatに相当する補文標識は、Eの先頭のゼロ形式「e」で表わしておく。

中国文(18)についても同じような構造化が可能である。

(27) [E [\bar{S} [COMP e] [S 没有一个人来叫他做短工] [\bar{S} [comp [NP e]] [S [NP …wh…] 却使阿Q胆子饿]]]] .

6. 展望

ベトナム語も中国語も、無標識の、つまり平叙節導入のための節頭要素をもたない主語平叙節を有していることは否定できない。本論では、この構文をKoster (1978) までのモデルに基づいて検討したが、Koster (1978) のモデルは、後にChomsky (1986)が提出した構造式型の発想と基本的に同じである。前者の最大範疇Eを後者の S'' (あるいは C'') で置き換えれば、中心部には補文標識 [COMP e] が、補部Sには [NP …wh…] とVPが並ぶことになる。中心部と補部の結合は S' (あるいは C') である。ベトナム語も中国語も「Wh移動」がないので、Koster (1978) の方式では例文(25)の右端のSの[NP t]の痕跡tに相当する束縛が使えないという点が未解決の問題として残るが、この点はLF(論理形式)レベルでwh移動を導入することによって解決が可能であると考えられる。⁹⁾

[注]

- (1) Greenberg (1963)の“Universal 1” (p. 61) 参照。
- (2) Kayne (1994), pp. 33–36. 大胆な仮説のゆえか、定説にはなっていないようである。
- (3) “The vast majority of languages have several variant orders but a single dominant one.” (Greenberg (1963), pp. 60-61)
- (4) Li, C. & S. Thompson 原書、黄宣範訳(1982), p. 345.
- (5) Hashimoto, K. (1977), “Unmarked Declarative Clauses: Some Cross-Linguistic Data” *Studies in Linguistics* 5, p. 310. (例文(7))
- (6) 丁声树等(1979), p. 112.
- (7) Nguyễn Đình-Hoà (1997) にはこの構文そのものの記述はないが、最大3個の行為動詞を含む「特異な構文」(a unique construction) が9.5節で言及されていて、これは連動式構文の特徴が濃厚である。vào (入る) Sài-gòn ra (出る) rồi (すでに) [サイゴンに行ってすでに帰ってきた。(橋本訳)] (ibid. pp. 198-199.)
- (8) ここでKoster (1978) はChomsky (1977) のWH移動に依拠している。
- (9) Chomsky (1992) (p.43) およびHornstein (1995) (pp. 11-13).

[参考文献]

Chomsky, N. (1977), “On WH-Movement.” In Culicover P. W., Wasow T. & A. A. Akmajian (eds), *Formal Syntax*. Academic Press, New York.

- (1986), *Barriers*. MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- (1992), *A Minimalist Program for Linguistic Theory. MIT Occasional Papers in Linguistics* Number 1. MIT, Cambridge, Massachusetts.
- Dương Thanh Bình (1971), *A Tagmemic Comparison of the Structure of English and Vietnamese Sentences*. Mouton, The Hague.
- Emonds, J. E. (1976), *A Transformational Approach to English Syntax: Root, Structure-Preserving, and Local Transformations*. Academic Press, New York.
- Greenberg, J. H. (1963), "Some Universals of Grammar with Particular Reference to the Order of Meaningful Elements." In J. H. Greenberg (ed.) (1963), *Universals of Language*. MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- Hornstein, N. (1995), *Logical Form: From GB to Minimalism*. Blackwell, Oxford, United Kingdom.
- Kayne, R.S. (1994), *The Antisymmetry of Syntax*. MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- Koster, J. (1978), "Why Subject Sentences Don't Exist." In S. J. Keyser (ed.), *Recent Transformational Studies in European Languages*. MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- Nguyen-Dinh-Hoa (1972), *Read Vietnamese: A Graded Course in Written Vietnamese*. Charles E. Tuttle Co., Tokyo.
- Nguyễn Đình-Hoà (1997), *Vietnamese: Tiếng Việt Không Sơn Phấn*. London Oriental and African Language Library. John Benjamins, Amsterdam.
- Rosenbaum, P. S. (1967), *The Grammar of English Predicate Constructions*. MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- Ross, J. R. (1967), *Constraints on Variables in Syntax*. Ph. D. dissertation, MIT. Reproduced by The Linguistics Club, Indiana University.
- Li, C. & S. Thompson 原著, 黄宣範 訳著 (1982). 『漢語語法 Mandarin Chinese: A Functional Grammar』. 文鶴語文研究叢刊③. 1982. 文鶴出版有限公司. 台北市.
- 丁声树, 吕叔湘, 李荣, 孙德宣, 管燮初, 傅婧, 黄盛璋, 陈治文 (1979). 『现代汉语语法讲话』. 商务印书馆. 北京.